

(事業番号) 事業名 3-②ダイオキシン類(大気)総量規制総合検討

現状分析	<ul style="list-style-type: none">概ね妥当と考えられる。この研究は極めて難しい。多種類の異性体を纏めて扱えるのかどうかについてしかるべき考えが提示されなければならない。ハザード評価につかわれたTEQをそのまま適用することは出来ないことに注意すべきである。
実施目標の達成度	<ul style="list-style-type: none">達成している。
具体的改善点	<ul style="list-style-type: none">良くなされており、改善を求める点はない。
その他	<ul style="list-style-type: none">この取り組みは、予測(シミュレーション)やケーススタディの結果得られた成果をもって「規制」という手法に実際に応用しようとする際の根拠となり得るものであるだけに、学術的な妥当性の検証や幅広い層からの批評を仰ぐなど、さらに吟味していくべきものとする。

(事業番号) 事業名 3-③ ダイオキシン類水質環境基準検討調査

現状分析	<ul style="list-style-type: none">・妥当である。・底質と一緒に扱うことは大切である。・水生生物について、ヒトやほ乳類と同じTEF（毒性等価係数）で良いか検討する必要がある。
実施目標の達成度	<ul style="list-style-type: none">・達成している。
具体的改善点	<ul style="list-style-type: none">・特になし。
その他	

(事業番号) 事業名 3-④ダイオキシン類未規制発生源排水規制検討調査

現状分析	<ul style="list-style-type: none">・ 定点での持続的な観測について検討されたい。・ 事業目的に照らし、体制、方法等が適切である。
実施目標の達成度	当初目的を達成し、政令改正に役立っている。
具体的改善点	良くなされており、改善すべき点はない。
その他	特になし

(事業番号) 3-5 ダイオキシン類地下水汚染原因究明手法設定調査

現状分析	<ul style="list-style-type: none">概ね妥当と考えられる。研究推進・体制の問題であるかどうかは明らかではないが、実験的研究が中途半端な結果となった。
実施目標の達成度	<ul style="list-style-type: none">予定通りと考えられる。研究成果には特段の新しい知見が含まれておらず、全般的に見てもの足りない内容となっている。
具体的改善点	<ul style="list-style-type: none">特になし。報告値の正確さや解析等を含め、より高度・精密化されたものとするのが望まれる。
その他	

(3-⑥) ダイオキシン類土壤環境基準等設定調査

現状分析	<ul style="list-style-type: none">・ 目標に対し体制、方法等、妥当である。・ 曝露調査（土壤生物、農産生物、それを介してヒト）なのか、ヒトへの健康影響調査なのかを、はっきり区別して扱うべき。
実施目標の達成度	<ul style="list-style-type: none">・ 目標を達成しており、施策策定に有効に機能している。
具体的改善点	<ul style="list-style-type: none">・ 「曝露リスク調査」と題されてはいるが、実態はダイオキシン分析に終始している印象がある。目的とする「土壤環境基準の拡充や見直しに資するため」に何を検討すべきと考えているのかをそろそろ明らかにすべきである。
その他	<ul style="list-style-type: none">・

22

(3-7) ダイオキシン類に関わる最終処分基準等検討調査

現状分析	<ul style="list-style-type: none">・ 目標に対し体制、方法等、妥当である。・ 実験結果について、異性体別の解析も欲しい。
実施目標の達成度	<ul style="list-style-type: none">・ 目標を達成しており、施策策定に有効に機能している。・ 予定どおりに進捗している。・ 埋立処分場でのダイオキシンの分解・安定化等についての科学的知見が得られている。
具体的改善点	<ul style="list-style-type: none">・ 環境省プログラム 3-5 との情報交換が望ましい。
その他	<ul style="list-style-type: none">・ 特になし

(3-⑧) ダイオキシン類土壤汚染対策費補助

現状分析	<ul style="list-style-type: none">・ 汚染対策費補助事業であり、評価対象としない。・ 設定目標達成に向けて体制、方法等適切である。
実施目標の達成度	<ul style="list-style-type: none">・ 目標を達成し、さらなる展開に貴重な情報を提供している。適用技術のさらなる改良が期待される。
具体的改善点	<ul style="list-style-type: none">・ ミレニアムプロジェクトの目的（排出削減に役立つ知見や情報の集積、処理技術の確立、無害化など）から考えて、単に一定地域の汚染除去を実施したということにとどまらず、その除去事業そのものを「研究」の対象として内容を分析し、他事例に応用できるノウハウを取りまとめるといった報告をすべきである。
その他	<ul style="list-style-type: none">・ 対策の効果をどうやって評価するのだろうか。

(事業番号) 事業名 3-⑨ 臭素化ダイオキシンの人への健康影響に関する調査研究

現状分析	<ul style="list-style-type: none">・ 目標設定に対し、体制、方法等、概ね妥当と判断される。・ 「全国調査」とはいえ4箇所（各数種）のサンプルが今後の参考となり得るか否か、代表性についての吟味が必要。・ 文献収集とパイロット調査はこれからである。
実施目標の達成度	<ul style="list-style-type: none">・ 未知の点の多い検討事項であったが、ほぼ目標を達成しており、概ね予定通りと思われる。・ 臭素化ダイオキシンの汚染状況について、世界に先駆けて成果を生んでいる。・ 環境中での存否（曝露の基礎情報）が得られつつあることは理解できるが、リスクを評価するためのどのような情報に不足があるのかを明らかにする必要がある（この点が文献調査の実施内容から読み取れない）。
具体的改善点	<ul style="list-style-type: none">・ 不足している情報を文献情報だけに頼るには限界があるように思われる。真に健康影響が危惧されると考えるならば、文献が出るのを待っているのではなく、積極的にハザード情報の取得（自ら毒性試験を実施するなど）の必要性の議論を行うべきであろう。・ 今後、継続的に検討されることが望まれる、注目すべき課題である。
その他	